学好中国话，为日中友好起桥梁作用！

日中学院報

495

2016.6

編集発行人・吉田隆司

毎月１回、１日発行
定価１部100円／１年1000円(送共)
郵便振替　東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3
TEL. 03-3814-3591
FAX. 03-3814-3590

Website…http://www.rizhong.org/
E-mail…info@rizhong.org

2015年度校友会中国旅行
「早春に浙江省の水辺と美食を訪ねる旅」報告

0. はじめに

今回の旅行は，校友会の元会長の長谷川先生が，1994年に校友会の中国旅行を始められてから20回目となり，先生がご高齢のため旅行の引率から降りられた後，自主的に旅行を継続してきた第Ⅱ期も10回目となる。

区切りの旅行として，江南の地が過去に繁栄した時の姿を探求しようと思い，第３回目の旅行先を再訪した。交通の便は当時とは比較にならないくらい良くなったので，前回訪れた個所はあまり立ち寄らず，旅行のテーマを大運河やクリーク，銭塘江などの水辺とそこで営まれ育まれた文化や美食に絞った。

建物類の見物よりは老街の散策などを多く取り入れ，古代の越や南朝（六朝）および呉越（十国），南宋の繁栄とその基盤となった江南の自然を味うことにした。

日程を比較的ゆっくりと組み，杭州市区，紹興市区，海寧塩官鎮，杭州淳安県（千島湖）を５泊６日で見て回った。参加者は時期もよかったためか，当初予定した人数を大きく越えたので，確保していた団体割引席以外の席も利用して，添乗員以下合計26名となった。

空路は成田－杭州間のANAの直行便を利用したので，実質４日半の観光ができた。

１．24日　成田から杭州へ，拱宸橋，海寧市泊，夕食

初日３月24日は，小雨の成田をNH929便で定刻に出発し，定刻の12時50分より早目に杭州到着した。空港には中国側の中国国旅の金さんが出迎えてくれた。

13時15分に李さんが運転するバスに乗り，50分ほどで京杭大運河1,794kmの終端である拱宸［Gǒngchén］橋に着いた。

現地も前日までは雨模様であったが，この日は風が冷たかったが雨は上がっていた。

全長92mの拱宸橋は，明末に建造が始まった杭州市内では一番大きな古石橋である。三つのアーチを持ち，現在でも土石など重量物の運搬に使われている大運河を跨いでいる。

橋を西に歩いて渡って，橋西に拡がる倉庫街と老街を散策した。ここは清朝末期までは，大運河水運の基地として栄えた場所である。

橋を東に戻って，橋の袂に建つ大運河博物館を見学した。博物館は2006年に公開したもので，大運河の歴史や構造など必要な知識が理解できる。

16時ごろに博物館から海寧市へ移動し，海寧駅の駅前広場に建つ凱元国際酒店に1泊した。現地ガイドの毛さんが出迎えてくれた。

なお，海寧は革製品の取引では全国有数の市場だそうである。

夕食は，蘭桂坊で摂った。キグチのから揚げがでた。こちらでは「大黄魚」という。

在来幹線の「滬［Hù］杭鉄路」の駅だったので，すぐ下で一晩中列車の音がしていた。

2.1 25日前半　塩官鎮へ，金庸書院見学と宰相府第風情街散策，昼食，海嘯見物

塩官鎮は，名前の通り海塩の管理をした役所があった昔の海寧城

A先生の新語コーナー

kuàidì
“快递”

宅配（便）。「快递」は本来、速達の意味だが、現在では宅配を指し、宅配業者の企業名も「～快递」とすることが多い。中国政府は昨年10月26日、宅配業の発展促進に関するガイドラインを発表し、２０２０年までの発展目標を掲げた。具体的には▽市場規模を世界一とし、年間の業務量を５００億件、業務収入を８０００億元に増やす、▽国内の重点都市間で48時間以内配達を実現し、国際宅配サービスの範囲を拡大する、▽毎年約20万人分の雇用を創出するなど。（A）

である。ホテルからは30km近く南西の，杭州湾の幅が急に狭まった銭塘江の河口に位置する。

塩官景区に９時半に着き，先に武侠小説作家金庸の故郷に2010年に建った金庸書院を見学した。書院は建物だけではなく太湖石や植栽など非常に凝っていて，古い江南の造りを忠実に踏襲していた。

宰相府第風情街は，柳が芽吹いている水路の両側に伸びる清代からの街で，伝統的な食品や産物を売っていた。そばには明清代に合計32人の進士を輩出した陳家の陳閣老故居もあったが，時間の都合で立ち寄らなかった。

早めの昼食を水路に面した乾［Qiān］隆酒楼で摂った。東坡肉の元になったという海寧罐肉が出た。罐肉は風情街の店でも売っていた。

昼食後，銭塘江北岸の観潮公園に行き，13時20分の海嘯を待った。名のとおり上げ潮の音がとても大きかった。潮は秋の2.5mほどは大きくなく，この日は1.2mであったという。

2.2 25日後半　紹興へ，黄酒博物館，古縴道，夕食，紹興泊，倉橋直街

海嘯を見終ってすぐ，高速道路で紹興へ向かった。銭塘江は4.5kmのトンネルでくぐった。

対岸は杭州市の近郊農業地帯で，農家の４階建ての新築住居が林立していた。

１時間余で2007年開館の黄酒博物館に着いた。以前は紹興酒の製造工程も見学できたが，今は展示のみである。できたての甘い「甜酒釀［niàng］」を試飲し，通常の紹興酒も入場券に付いていた試飲券で賞味した。黄酒は味醂とおなじく糯米で作る。

約１時間後に博物館を出て，古縴［qiàn］道に向かった。途中104国道の拡幅立体化工事で，ものすごく渋滞し16時半ごろにようやく目的地に着いたが，バスを止めるところがなく，工事現場事務所に止め，道端で乗り降りした。

ここも世界遺産の一部として登録されていて，曳き船のための石畳の道が運河沿いに続いている。

30分ほど散策した後，魯迅の『孔乙己』で有名な居酒屋の咸亨酒店へ行き，18時から１時間半ほど，10年ものの美味しい紹興酒で晩餐を摂った。炸臭豆腐など，紹興の美食が出た。

参加者の一人の友人が寧波から駆けつけて来て，特別に美味しい紹興酒を差入れてくれた。感謝！

食後，以前の紹興市の招待処であったという紹興飯店にチェックインし，20時半ころ，すぐそばにある倉橋直街へ「春宵一刻値千金」の気分を味わいに出た。

３．26日　蘭亭，沈園，八字橋，昼食，千島湖へ，夕食，淳安泊

ホテルは越王勾践が宮殿を置いたといわれる府山のすぐ北側にあり，朝の散歩で府山へ行った人もいた。

この日は，前日午前中までの寒さもなく，８時半に市街南西にある蘭亭に向かった。

９時過ぎから１時間ほど，王羲［Xī］之が曲水流觴［shāng］を主催したという場所や康熙帝の御筆という『蘭亭序』碑を見たりした。曲水は想像していたものよりも規模が小さかった。ここに41人もよく集まったものだと思った。

市内に戻り，11時半前に沈園に入った。入り口付近には臭豆腐を売る店があり，入園を待つ間，臭いを嗅がされた。新緑の園の前の水路には，観光用の烏篷［péng］船が多数行き来していた。

陸游が別れさせられた妻と出会ったという宋池塘や，その時詠んだという詞『釵頭鳳』が壁に彫り込まれているのを見た。

沈園は半時間ほどで見終り，12時過ぎに八字橋に着いた。途中魯迅故里の入り口の前を通ったが，中はとても混んでいるようであった。ここには寄らないことにしていた。

八字橋は大運河世界遺産の一部に登録されている。第３回旅行の時の長谷川先生の報告にも“運河の周辺には老街が残っている”と書かれているが，今回も残っている老街を見ることができた。

再び沈園の西へ戻って，13時近くに波影大酒店で昼食を摂った。生蝦を紹興酒に漬けた醉蝦は，衛生上の問題で供されなくなっていた。

13時半過ぎに千島湖を目指して200kmの移動を開始した。高速道路は，杭州市街を取りまく環状高速（G2501）の高架橋が落ちた影響で，ものすごく渋滞していて，西湖サービスエリアでトイレ休憩するまで２時間近くかかった。

環状高速を離れてからは順調に走り，17時過ぎに千島湖の出口から淳安県の市街地を走り，18時前に夕食を摂る緑之島という店に着いた。

千島湖ビールで乾杯した。農

夫山泉というブランドの水は最初は水質がよい千島湖の水で作られたという。淡水魚の料理がたくさん出たが，川魚のから揚げは香辛料がキツかった。

食後外へ出ると雨が降っていた。現地ガイドの呉さんが出迎えてくれ，海外海假日酒店に19時10分に投宿した。

４．27日　千島湖，西湖へ，蘇堤，夕食，杭州連泊

前日の雨は６時半ころまで残ったが，８時までに出発しないと，自転車競技のために道路が封鎖されるというので，急いで朝食を摂り，遊覧船の乗り場へ行った。雨は上がっていた。

船はチャーターしていたので，浮き桟橋から待たずに乗れ，８時半過ぎに湖上の船旅に出た。50分ほどで梅峰島に着いた。

冬が終わったばかりで，湖面が下がっていた。島の下部が露出していたところに船を先端から泊めて，舟板を架けて上陸した。赤茶けた滑り易い斜面を登って島の周辺道路に出，10時前に頂上へのロープウェーに乗った。

ほんの２，３分で海抜204mの梅峰の展望台に着いた。春霞がかかっていたので，300余の島が見渡せるという展望台からは，数10の島影しか見えなかった。梅峰島には２万本もの梅の樹があり，花が咲いている時に遠方から見ると，頂きが桃色に見えるそうである。しばらく展望や景観を楽しみ，下に降りて同じ船で50分かけて戻った。

昼食は船着場のすぐ正面にある湖辺魚庄で摂った。12時10分過ぎに食事を終え，バスに乗って西湖に向けて来た道を戻った。帰りの高速道路を環状道路との合流点で降りたが，日曜日とあって西湖周辺の道路は大渋滞であった。

時間的に一方通行になっていたので，西湖の周りを反時計回りに走って，４時間かかって岳王廟のそばで降りた時は，日が傾き始めた16時20分ころであった。

蘇堤は人の山であった。蘇堤の西側には昔の高官や金持ちの邸宅や庭園が集まっている。これらの景色を鑑賞して，１時間後に再びバスに乗った。

渋滞する道路を南に約１時間走り，18時半に銭塘江に近い山の南麓にある中国杭幇菜博物館に着いた。夕食は館内の銭塘厨房で摂った。選りすぐりの杭州菜が出たが，目玉は一人分ずつ深鉢に入った東坡肉であった。

食事は1時間ほどで終わり，西湖の東側平海路に建つ杭州維景国際大酒店に20時半に着いた。このホテルには連泊した。

５．28日　西渓湿地，昼食，河坊街自由行動，宴会

この日は天気がとてもよく，日焼けを心配するくらいであった。８時半にホテルを出て，西湖西側の龍井茶の山下をトンネルを三つ抜けて北へ向かった。

１時間ほどで西渓湿地公園の入り口に着いた。西渓湿地は，

一人分百数十元の東坡肉

農地や宅地化される以前の江南の状態を復元したものであり，杭州の街の中にある。一部はラムサール条約の湿地として管理されていて，柿が植わり，28種もの水鳥が生息している。

足を踏み入れることができるのは非管理地である。なお，ここは湿原ではなく，陸と水とがはっきりと別れている湿地である。

10時に入園後，電動船で25分ほど湿地内のクリークを進んだ。月曜日だったので客は少なく，船は事実上の貸し切りになった。日本語の録音音声による解説を聴くことができた。

開放されている個所の陸に上がり，以前の建物のたたずまいを見ながら「千里鶯啼緑映紅」の江南の春を享受した。さらに清初の文人高士奇の別荘「西渓山荘」に入り，当時の典型的な前宅後園の造りを見た。

12時半前に湿地公園を出て，西湖の北にある青藤茶館（錦綉店）に12時50分に着いた。ここでは杭州名物の叫花鶏（こじき鶏）を各卓３羽ずつ出してもらい，サッパリした味を賞味した。

14時前に店を出て，25分ほどで西湖の反対側にある河坊街の入り口の駐車場に着いた。河坊街の1本北の高銀街にある宴会をする予定の皇飯児がある場所へ行き，18時にこの店に集合することにして，３時間ほど自由行動とした。

なお報告者は，国薬（漢方）店や刀剣屋を見た後，太極茶道苑で２時間ほど龍井茶を飲みながら茶芸と太極茶道の実演を見て，江南の伝統的な茶館の雰囲気を味わった。

宴会では西湖醋魚が出たが，

後の方だったので味わなかった人もいたかもしれえない。19時前から参加者全員の自己紹介をし，添乗員の手塚さんを最後にお開きとなり，20時20分にはホテルに帰り着いた。

６．29日　西湖自由行動，帰国

帰国日は昼食（機内食）が出るのが遅いので，朝食を遅めに摂ることにして，西湖の周辺や街中を散策した参加者もいたと思う。

10時半にホテルを出て，11時過ぎに空港に着いた。雲行きもだんだんと怪しくなって来ていた。帰国はNH930便で，機材は来るときよりは大きなものに変更されていた。

出国手続き後解散式をし，成田では自由解散とした。上海から出発する便との空路輻輳により，定刻の13時40分から30分近く遅れて飛び立ったが，成田には定刻の17時50分前に着き，浙江省への旅は無事終了した。

おわりに

2015年度の校友会旅行が盛況かつ無事に終わったことについては，日中学院および校友会の関係者各位以外に，日中平和観光の担当者の佐藤さんと添乗員の手塚さん，中国国旅の担当者兼スルーガイドの金さん，海寧と千島湖の現地ガイドの毛さんと呉さん，運転手の李さんおよび旅行参加者各位のご尽力並びにご協力の賜物であると感謝している。

なお，16年度以降の旅行については，候補地や旅行形態だけでなく，担当旅行委員の人選をも含めてまだ未定である。

2016年５月16日
校友会旅行委員　猪飼記

さらに詳しい内容の報告は，下記のHPをご覧いただきたい。
http://xiaoyouhui.sakura.ne.jp/Lvyou/Lvyou20.htm

京杭大運河の終端、拱宸橋

新任講師紹介
別科講師：赤池晴香（夜間：応用）

大家好！私はこの４月より、別科基礎課程夜間講座の応用班を担当させて頂くことになりました。中国語教育の長い歴史と実績を持つ日中学院で教学の機会を頂けたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。大好きな日中学院で中国語講師として働くことは、本科卒業以来、ずっと胸に抱き続けてきた“梦想”でした。私は日中学院本科でゼロから中国語を始め、本科卒業後も大学編入、大学院進学、北京留学と、ずっと中国語を学び続けてきました。何年も途切れることなく続けることが出来たのは、学院での学習で「中国語って楽しい！もっと深めていきたい!!」という気持ちを持ったからです。また、先生方や同学達の中国語、中国に対しての愛、情熱も私の気持ちを支えて下さいました。今までは（卒業後もずっと）生徒という立場で学院と関わらせて頂いていましたが、これからは講師の一員として、微力ながら責任を持って皆様の中国語学習のお手伝いをしていきたいと思います。語学学習は終わりの無い長い道のりです。学習目的や方法、効果も人それぞれで、続けることが難しくなる時もあるでしょう。しかし、中国語がおもしろいな、好きだな、という気持ちがあれば、必ず自分なりの学習成果が得られると私は信じています。ぜひ、一緒に中国語を楽しみましょう。よろしくお願い致します。

你喜欢学汉语吗？它能让我们开阔眼界，也能让我们接触到一个新世界。我们踏进日中学院校门的一小步就是走近世界的一大步，一起学习汉语吧！ 谢谢。